

## 茨城県常陸太田市におけるシラサギ類の集団繁殖地の観察記録

植竹 孝

〒319-2104 茨城県那珂市平野1800-40

### はじめに

1990年代はじめ、茨城県那珂市の杉林に 200羽ほどのサギ類による集団繁殖地(以下、コロニー)が形成されたが、それはまもなく消滅した。同時期に、水戸市笠原町の現茨城県庁庁舎に隣接した林にもサギ類のコロニーが形成された。筆者が1992年に調べた結果(植竹 未発表)、夕方に760羽のサギ類がこのコロニーへ入るのを確認した。しかし、地区住民からの追い払いにより、このコロニーは数年で消滅した。その後筆者は、1995年 8月に茨城県常陸太田市の久慈川河川敷においてシラサギ類のコロニーが形成されていることを発見した。上田(1994)では、シラサギ類のコロニーからの出の多くは日の出前後 1~2時間であり、また、コロニーへの入りの多くは16~19時であったが、筆者がこのコロニーを発見した時、夕方にサギ類がある程度の数でまとまって、一定の方向に飛去することを確認した。そのため、本来はなぜこのコロニーでは夕方にも出ていく群れがあるのか疑問に思い、夕方にサギ類の出入りの個体数について調査を開始した。また、このコロニーが住民による追い払いを受ける可能性も考えられたため、毎年継続して調査することとした。しかし、このコロニーは人家から離れた河川敷に繁殖地が形成されたためか、住民により追い立てられるのをまぬがれ、少なくとも2005年時点までは継続してねぐらを形成している(植竹 未発表)。そのため、1995年から2005年の10年間における観察となった。この10年の観察から、シラサギ類のコロニーの個体数についていくつかの知見が得られたので、ここに報告する

### 調査地および調査方法

調査対象としたコロニーは茨城県常陸太田市の久慈川河川敷にあり、久慈川と堤防の間の河川敷に形成され、南側は砂礫を介して久慈川本流に接し、北側は河川敷に作られた畑地と接し、堤防の外側には集落があり、最も近い民家とは 300m以上離れている(図 1)。繁殖地は高さ 5mを越えるササ藪となっており、コロニーの西側の河川敷には高さ約10mの雑木林が 300mほど続いている。この雑木林は、サギ類の休息時には使用されるが、営巣には使用されていない。なお、コロニーは1996年には南北 100m、東西 150mであったが、その後は徐々に東側にあるササ藪に向かって

---

2007年 3月28日 受理

キーワード: サギ類, 集団繁殖地, 茨城

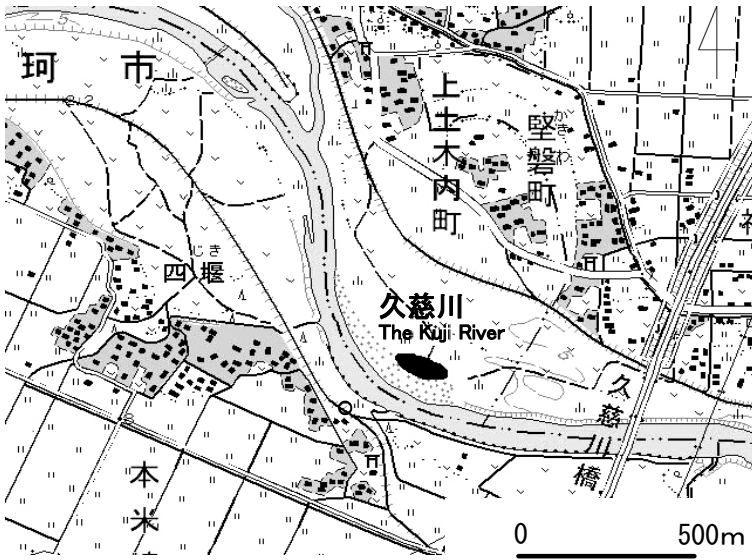


図 1. 調査地周辺の状況。黒塗りの場所が繁殖地、○が観察場所。

Fig 1. Map of the study site. Dark patch represents the breeding colony. ○ indicates the counting point.

拡大し、2005年には東西の長さが 250mに拡大した。

1995年と1996年の予備調査により、サギ類の群れは、久慈川上流部から川の水面上を集団で戻ってくる群れ、南西部の田圃を越えて堤防すれすれに飛来する群れがおもであり、一部には常陸太田市方面から高い高度で戻ってくる集団のあることが分かった。そのため、この3つの方向を見渡すことのできる、コロニーの対岸となる那珂市の堤防から10分間ごとに繁殖地へ出入りする個体数をかぞえることで、カウントを行なった。また、カウント開始時に、高い位置で久慈川にせり出し、コロニーが見渡せる取水口の水門上部から、樹冠部にみられるサギ類の数をカウントし、それを初期の個体数とした。

調査期間は、先述の予備調査を含め1995年から2005年までの繁殖期であり、調査時間は茂田(1979)、山岸(1980)、上田(1994)を参考に、16時から日没後サギ類がほとんど戻ってこない19時までとした。1997年は調査期間を7月20日から2か月間とし、その間10回の調査を行ない、繁殖地への入りの個体数から出の個体数を引いた、時間経過にともなう累積個体数の変化をくわしくみた。1998年はさらに調査期間を早め、シラサギ類が繁殖をはじめめる4月23日から9月23日の5か月間に8回の調査を実施した。

調査対象のコロニーで観察されるサギ類はコサギ *Egretta garzetta*、チュウサギ *E. intermedia*、ダイサギ *E. alba*、アマサギ *Bubulcus ibis*、ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*、アオサギ *Ardea cinerea*であるが、調査対象は日没付近でも色が白く観察のしやすい、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギのシラサギ類4種とした。

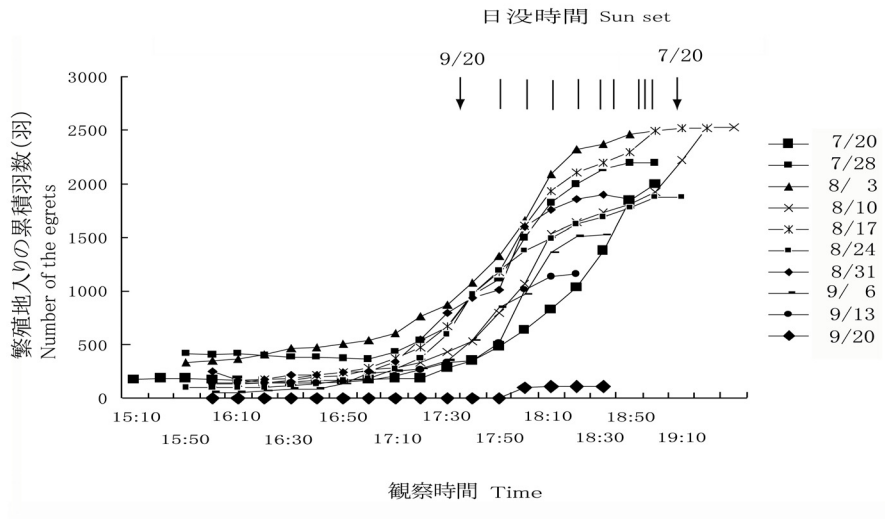


図 2. 1997年 7月20日から 9月20日の間におけるシラサギ類の累積羽数の時間変化.

Fig. 2. Seasonal change in the number of the egrets at the breeding colony between July 20 and September 20 1997

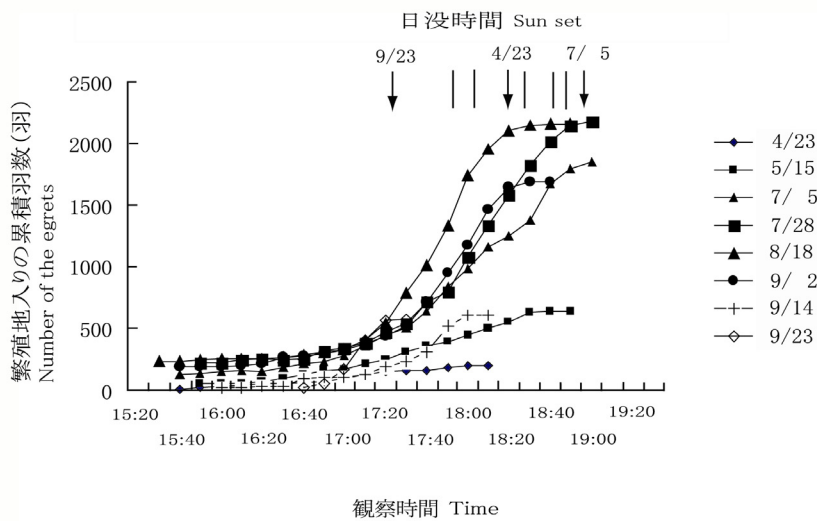


図 3. 1998年 4月23日から 9月23日の間におけるシラサギ類の累積羽数の時間変化

Fig. 3. Seasonal change in the number of the egrets at the breeding colony between July 20 and September 20 1997



旬にほぼいなくなるという、水城高等学校MAS同好会(1999)の調査結果とほぼ同様であった。

### 3. 繁殖地に入入りする個体数の年変動

1998年までの調査で分かった結果をもとに、コロニーでのシラサギ類の個体数が最大となる7月中旬から8月上旬において1999年から2005年まで、1998年までと同様の方法で調査を行なった。その結果と1999年以前の結果をあわせて、10年間での各測定日におけるコロニーの最大個体数を図4に示した。シラサギ類の個体数は年によって多少のばらつきはあるものの変動は一定の幅の中にあり、このコロニーで個体数が最大に達する期間はおおむね7月下旬から8月上旬であり、8月中旬を過ぎると個体数が減少しはじめ、9月に入るとコロニーは消滅した。10年間での個体数は、最も少なかった2000年の1500羽から最も多かった2005年の3200羽の間で変動した。最大個体数については年による違いが大きく、その理由については分からなかった。コロニー周辺の土地利用との関係なども含め、今後の課題としていきたい。

### 謝 辞

日本野鳥の会自然保護室の浦達也氏には、本報告を執筆するうえで必要となる資料の提供をいただいた。

### 引用文献

- 上田孝寿. 1994. 千葉県印旛郡におけるシラサギ類の集団繁殖地の観察記録. *Strix* 13: 65-72.
- 茂田良光. 1979. 新浜鴨場におけるサギ類の就時個体群について. 千葉県新浜水鳥保護区生物調査報告IV: 140-153.
- 水城高等学校MAS同好会. 1999. 久慈川流域のサギ類の繁殖状況を探る(2). すずがも 第2号. 水城高等学校, 水戸市.
- 山岸 哲. 1980. 奈良盆地におけるサギ類の集団繁殖地と埒の配置および採食範囲. *Tori* 29: 69-85.

Seasonal change in the number of egrets at a breeding colony  
in Ibaraki Prefecture, central Japan

Takashi Uetake

Hirano 1800-40, Naka-city, Ibaraki, 319-2104, Japan

During each breeding season from 1995 to 2005, I counted the numbers of four species of egrets (Little Egret *Egretta garzetta*, Intermediate Egret *E. intermedia*, Great Egret *E. alba* and Cattle Egret *Bubulcus ibis*) that entered and departed from a breeding colony in Ibaraki Prefecture, central Japan between 16:00 and 19:00. I obtained the following results:

1. The egrets stopped entering their breeding colony approximately at sunset throughout the breeding season.
2. The number of birds began to increase in July with a peak between late July and mid-August. The egrets began to decrease in number in late August with a sudden drop after mid-September.
3. Throughout the study period the number of egrets reached a peak between late July and mid-August, and began to decrease in late August. No bird used the breeding colony after mid-September. The number of egrets fluctuated between 1,500 and 3,200 birds during the ten-year study period.

*Key words* : Egrets, breeding colony, Ibaraki